

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 美術品等収集費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 15,700 千円 (前年度予算額：15,700 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	15,700	0	0	0	0	0	0	0	15,700
要求額	15,700	0	0	0	0	0	0	0	15,700
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・全国一の陶磁器産地であるこの地域の特性と連携した美術館活動を推進し、地域文化の振興・発展を図ることを目的として、近代及び現代における芸術的価値の高い世界の陶磁器作品及び関連資料を収集し、収蔵作品を調査研究のうえ展示公開する。
- ・地場産業の再生・活性化の起爆剤となり得るような、新たな商品価値 (新たな生活文化の提案・創造、新しい産業デザインの発見、个性的商品開発) につながる近現代の陶磁器情報や最新情報を提案していくとともに、広く県民に陶磁器芸術を紹介していく。
- ・「行財政改革大綱」(H18.3 策定) により投資的経費は毎年 5% ずつ削減され、美術品等収集費について、平成 21~24 年度は休止された。平成 25 年度から再度措置されるようになったが、現状は休止前の額とほぼ同等の 1,570 万円が上限となっている。しかしながら、令和 2 年度 5 月補正では、新型コロナウイルス感染症対策のため、収集費予算がマイナス 1,000 万円となり、収集予定の作品を購入できなかった。
- ・令和 4 年度の開館 20 周年に向けて目玉作品の購入・収集を計画するにあたっては、1,570 万円が対象作品の上限となって検討作品の対象が抑えら

れること、またこの措置額以上の作品が出てきた際に、特別な予算措置を講ずる間に機を逃す可能性があることが課題となっている。

(2) 事業内容

○現代陶芸美術館収集方針・収集計画に基づき収集

・収集方針「近現代における日本と世界の陶磁器」

a. 個人作家の陶芸 b. 実用陶磁器 c. 産業陶磁器

を収集の3本柱として収集候補作品を選定する。

・候補作品（購入・寄贈・寄託）は、美術品等収集委員会に提出し、委員から聴取した意見に基づき、承認された作品について受け入れを進める。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	15,700	美術品収集費
合計	15,700	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本事業費が安定して継続的に措置されることにより、収集計画をたて、それともなう収集候補作品の情報収集や調査をすすめることができる。購入作品により当館収蔵品を充実させ、展覧会での活用とともに、地域の陶磁器産業振興に資することを目指したい。

また、令和4年の開館20周年記念事業における目玉作品として、特に優れた作品を収集したい。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
				(前々年度末時点)		
入場者数	(H)	33,645 (H29)	69,852 (H30)	24,976 (R1)	12,700 (R3)	131%

※R3年度に開催する企画展は2本である。R1年度には企画展が3本あったため、以下の計算で達成率を算出した。

$$(24,976 \times 2/3) / 12,700$$

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- ・令和2年11月～12月の間に令和2年度の美術品等収集委員会を開催する計画である。美術品等収集費が5月補正により1,000万円減額され570万円となり、その範囲で購入する。また収集方針に沿う作品を調査し、購入を検討する。
- ・調査中の作品については、優先するものを検討しながら、次年度以降の計画も立てていく。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
令和2年度の本事業費による購入作品は、当館コレクションをより充実させ、コレクションのより多角的な展示活用を可能とする。このことにより、県民へ充実した陶芸文化紹介を提供することが見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 		
(評価)	○	収蔵品の充実化が図られることにより、収蔵品を活用して、より魅力的な展覧会等の美術館活動を行うことができる。さらに、地域の陶磁器産業におけるデザインマインドを刺激して、その活性化に資することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 		
(評価)	○	平成21年度から24年度まで本事業費休止が続き、コレクション形成が停滞し、限られた作品で展覧会をつくる状況が続いた。購入によって収蔵品が充実することで、展覧会の企画テーマの幅を広げることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 		
(評価)	○	手続きの緊急性を要する作品を考慮しながら、収集計画を立て、事業の効率的な実施を図っている。

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項
 - ・不安定な予算状況では、購入対象とする作品の情報収集や調査に問題を生じる。今後本事業費が安定して計画的に措置されることによって、将来を見越しての収集計画を立て、それを実施していくことができる。そのため、継続的な予算措置の見通しを持てるようになることが課題としてある。

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
当館が建つのは、長い美濃焼の歴史をもつ、現在も県の重要な地場産業の地

であり、また現代陶芸の発信地となっている地である。当館が、より充実した収蔵品で、陶芸文化を大切なものとして県民に紹介していくことは重要であり、県民の誇りを育成するためにも、本事業は継続すべき事業である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	